

Sullana

ペルー北部から



Vol. 4

ペルー緊急事態宣言後の生活

青年海外協力隊 藤澤亮 職種：環境教育

▼ 緊急事態宣言発令時の状況

3月16日よりペルーでは新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発令されました。発表されたのは15日午後5時頃。テレビの生放送に釘付けでした。本宣言後、16日午後11時59分より、人の移動が2週間に渡り禁止されることとなりました。外出も食料や医薬品の購入等の目的を例外に、禁止されることとなりました。16日は帰宅のための猶予日でした。全ての公共交通機関が閉鎖されるため、旅行者は大混乱しました。首都リマに滞在していた職場の同僚も急速スジャーナに帰ることとなりました。飛行機のチケットは高騰し、リマ空港には帰宅者が殺到。阿鼻叫喚といった雰囲気だったそうです。16日昼過ぎに、その日のリマ空港の全てのフライトが満席となりました。航空券を持っていない人は空港から去るようアナウンスされ、帰ることができなくなり泣きながら電話をする人、呆然と立ち尽くす人がいたと聞きました。同僚は幸いフライトを予約でき、無事帰宅することができました。その後、外出禁止令は更に2週間延長されることとなりました。あの日、自宅までの交通手段を手配できなかった人々は、未だに帰宅できずに取り残されています。

▼ スジャーナの現状

現在、外出禁止令が出てから2週間が経ちました。私はこれまでに3回食料を購入する目的



静まりかえったスジャーナの中央広場。



営業を中止するリマ空港の売店。



16日のリマ空港の帰宅ラッシュ。フライトが詰まっている。

で外出しました。町内各所には警察が駐留し市民の動向を監視しています。ですが、想定していた程町の雰囲気は重苦しくありません。多くの警察官はすれ違う時、気さくに挨拶してくれます。ラジオでサルサを流しながら監視している警察官もいました。報道では厳しい面持ちで銃器を携帯し監視する軍人や警察官を見ますが、スジャーナでの現場感はまったく異なっています。

人々もパニックに陥っている様子はありません。スーパーマーケットでは、米やパスタ等の備蓄食料からトイレットペーパーといった日用品必需品まで不自由なく入手することができず。外出禁止令の発令後、初日こそ長蛇の列ができ買い占めが行われたそうですが、現在は落ち着いています。むしろ普段の方が利用客は明らかに多いです。カーに商品が山盛りの客の列と、手際が悪いレジ打ち担当者に30分程待たされるといったことはよくありました。現在はそのようなことはなく、普段より快適です。人々は自宅での家族との交流を楽しんでいるように見えます。また、スジャーナは日中がとても暑く、普段の休日でも外に出かける人はあまりいません。ショッピングセンターといった娯楽目的の外出の対象となる施設もなく、休日は自宅で家族とグラグラ過ごすのが普通です。このような特徴もあり、人々は冷静に自

Sullana

ペルー北部から



Vol. 4

ペルー緊急事態宣言後の生活

青年海外協力隊 藤澤亮 職種：環境教育

宅待機生活を送れているのかもしれませんが。

一方で警察の監視が手薄な郊外では、銃器を用いた強盗等の犯罪が頻発しているようです。スジャーナは北南米縦断道路バンアメリカンハイウェイと北部主要港湾都市パイタにつながる国道102号線が交差する町です。そのため、外部からの人の出入りが多く、ベネズエラから来る難民の方たちも多く滞在しています。このような背景からスジャーナは一般的にペルーの中でも治安が悪い町と言われています。今後、人々が労働できない時間が長引くと、更なる治安の悪化が危惧されます。私も郊外に住んではないとはいえ、外出には細心の注意を払います。

▼ 外出禁止令発令後に体験したこと

先日、自宅アパートの大家さんと食料を買いにいきました。その際、警察官に呼び止められました。「あなたはこの女性の息子ですか」と質問されました。もちろん、私と大家さんとは顔がまったく違うので驚きました。私は「No」と答えましたが、大家さんは何故か「Si(はい)」と答えました。警察官は少し戸惑った様子。「何故嘘をつくの」と焦った私。ペルーでは実の子でもなくても、年下の人物を「ママ(息子)/「パパ(娘)」と呼ぶことがあります。そのため、息子だと答えたのだそうです。説明を聞くと警察官は「間違いない」と笑っていました。身分証明書を提示し



生徒がくれたミサンガ。



掃除中の私の部屋。



誰もいないスジャーナ中心地。

無事解放されました。

▼ 帰国の準備と思い出

私も帰国に向けて準備しています。寂しい気持ちで、1年9ヶ月間お世話になった部屋を片付けています。荷物を整理していると、思い出の品が出てきました。ママと示されているミサンガです。これは、私が環境教育の授業を担当していた中学校のある生徒にもらったものです。昨年末の年度内最後の授業の時でした。

私の名前は「リョウ」です。ローマ字で「リオ」と表記します。これをペルーの人が読むと「リオ」となります。「リオ」はスペイン語では川(Rio)という意味です。リオデジャネイロの「リオ」です。そのため、大抵ペルーの人は僕の名前を「リオ」と書きます。その生徒は、私が何時でも自分の名前の正しい綴りを伝えて、相手と友達になれるようにとの願いを込めてミサンガを作ってくれたのです。授業で取り扱ったテーマに関して、いつも親に伝え、議論をしていると言ってくれるような、優しく真面目な生徒でした。その時がペルーに来て以来、最も感動した瞬間でした。

私はその生徒に「来年も授業をしに来るから、楽しみにしていて」と伝えました。それから学校は未だに休暇中です。私は日本に帰国します。生徒との約束を守れない可能性があることを私はとても悲しく思います。一刻も早く世界の状況が好転することを願います。